



平成15年度
進路講演会

◆2年進路講演会 平成16年3月4日(木) 玉名市民会館大ホール



山根一眞氏



梶原しげる氏



両氏による対談

2年生と保護者を対象とした進路講演会が玉名市民会館で開かれました。まず、両氏に1時間ずつ講演をしていただき、最後に両氏による対談形式で質疑応答が行われました。

◆演題「100歳までのあと85年～短い人生の充実作戦～」 山根一眞氏 ※[プロフィール](#)

「自分のやりたいことで社会と接点をもつ」という生き方を貫いてこられた山根氏。高校時代からの知らないことはその場で恥をかいても聞いてきたことが現在の山根氏の仕事につながっている。情報化社会になって、なんでも知っているような気になっているが、自分の目で確かめて、自分の耳で直接聞くことが大切である。深海から宇宙まで幅広く、好奇心旺盛な生き方が、山根氏の人生観を変えてきた。宇宙旅行や深海にはどうも行けそうにないが、ロケットの打ち上げシーンは是非見てみたいと思った。

◆演題「口のきき方」 梶原しげる氏 ※[公式サイト](#)

アナウンサー生活20年だが、大勢の人前で話すのは緊張するというのが意外であった。ユーモアを交えながらの独特の語り口の講演はあっという間に時間が過ぎていった。若者が使う言葉“お会計のほう”、“わたしとかは”など直接的な言い方を避け、あいまいな言葉を使う傾向は「ふれあい恐怖的心性」との相関が高い。人にはそれぞれ喋り癖がある。喋りを変えることによって心を変える。このことについては著書「口のきき方」(新潮新書)を読んでいただきたい。

◆対談

両氏は今回が初めての出会いであった。そのことが信じられないほど、次から次へと話題が尽きない対談となった。時間に限りがなかったら、何時間でも続いていただろう。小さなバッグから取り出された山根氏の数々の取材道具に驚かされるとともに、そこまで徹底して自分の目で確かめようという姿勢の一部でもいいから見習いたいと思った。初めて出逢った人と話すコツは、自分のことをいかに話すかではなく、聞き上手になることであるということを感じた。

「人生を楽しくする方程式」 ピーター・フランク氏
(平成15年11月6日実施)

1年生・保護者対象



玄関から体育館に向かわれるとき、歴史資料室に掲げてある額の文字に興味を持たれ、何と読むのか尋ねられました。このような漢字に対する旺盛な興味・関心は講演の随所で披露されました。講演要旨は次の通り。

熊本に来たのは15回目だが、玉名は初めて。「ハンガリー人は何語を話すか」に始まり、世界で一番難しい言語は日本語である。それは一つの漢字で何通りもの読み方があるから。そんな難しい日本語を話す日本人が簡単な英語を話せないのは、自分の考えや意見をまとめて発表する訓練を受けていないからである。二十一世紀は「専門の世紀」である。ゼネラリストではなく、専門家を目指して欲しい。実現可能な夢をもち、誰にも平等に与えられた「時間」を大切にしたい。

日本人以上に漢字、四字熟語やことわざに詳しくびっくりさせられました。時折、ジャグリングを交えながら、フロアに降りて一年生や休み時間に見学に来た生徒にまで質問したりなど、ユーモアにあふれ、90分という時間があっという間に過ぎてしまった素晴らしい講演でした。

「君の夢を実現するために」 壺溪塾講師 後藤和孝氏
(平成15年6月26日実施)

3年生・保護者対象



〔講演要旨〕

1. まず現実を知ることが大事なことである。
2. 集中力・持続力を持つために必要なことは「目標」を設定することである。
3. 持続する「夢」が「現実」を変えていくエネルギーになる。
4. 常に「プラス思考」であることが大事なことである。

以上の4点について、ユーモアを交えたお話でおよそ90分間講演していただきました。タイタニック号の遭難事件、手塚治虫氏の「夢」の「現実化」、アインシュタインやエジソンの少年期の挫折、イチロー選手の努力と成功、等々多くの具体的な事例を挙げながらの説明は、生徒に多くの感銘と元気、勇気を与えました。会終了後、提出されたアンケートにも、「マイナス思考になりがちだった最近の生活を改めて考え直そう。」「目標は叶う(口に+)と信じるのが大切だと分かりました。」「コツコツやること、努力することが大切だ。」「判定はC・Dだけれどもうさがることはしない。諦めずに頑張るぞ。」といった内容のものがほとんどでした。

「先回りして夢を摘みとるなかれ」「あたる前に碎けるな」などの印象的な言葉が生徒の胸に刻まれた素晴らしい講演でした。